

北原真冬教授 推薦文

私の研究分野としまして、言語の発音と知覚に関して様々な実験や調査を行ってきましたが、最近の研究成果から明らかなこととして、(1) 多人数の多様な音声を耳に入れることで、外国語音声の聞き取りも発音も向上すること、(2) 英語ネイティブの発音のコツが多数あるのに、日本の英語の教科書・授業では全く触れられていないため、それを知らない人が多い、という2点を挙げたいと思います。

(1)は、英語教材の付録CDによくあるように、一人のネイティブスピーカーがひたすら読み上げているようなものでは、最大の効果は得られないということです。外国語発音のパターンを定着させるためには、多様なインプットからの「一般化」を無意識に行うことが必要です。例えば、テニスの試合でちゃんと活躍できるようになりたいと思ったら、多様な相手、多様なコート、多様な気象条件で練習していくしかありません。壁打ちの天才になってもしょうがないのです。

(2)は、すなわち、発音は単独の母音や子音をただつなぎ合わせたものではなく、それぞれの音とその並び方によって様々に変化してしまうもの、という、音声学的な事実に行き当たります。例えば、bet と bed という二つの単語の/e/という母音は、多くの日本人にとって全く同じものと捉えられていると思います。しかし実は bed の母音の長さは bet の約 1.5 倍もあります。一般に/b,d,g/などの有声音の前では/p,t,k/などの無声音の前に比べて母音が長くなるのです。

speek は、音声学をベースにして、きちんとした発音・聴解のレッスンを行う、日本では珍しい英語発音矯正スクールです。英語の発音を強化することは、英語にまつわる全ての部分での自信が増すことにつながると考えられます。たとえどんなに難しい単語を知っていても、それが「日本語単語との相互翻訳」的な知識に終始していて、どこにストレスを置いて発音するかがあやふやなままでは、結局、人前でその単語を発音することはできません。「言いたいことは頭の中でぐるぐると回っているのに、口から音が出てこない」状態は辛く、恥ずかしく、逃げ出したくなるような思いがするばかりで、英語に対する苦手意識を溜め込んでしまうのではないのでしょうか。目の前でしっかりと受け止めてくれる相手と集中的にレッスンすることで、それを克服していくのに speak は最適な発音矯正の場所だと思います。